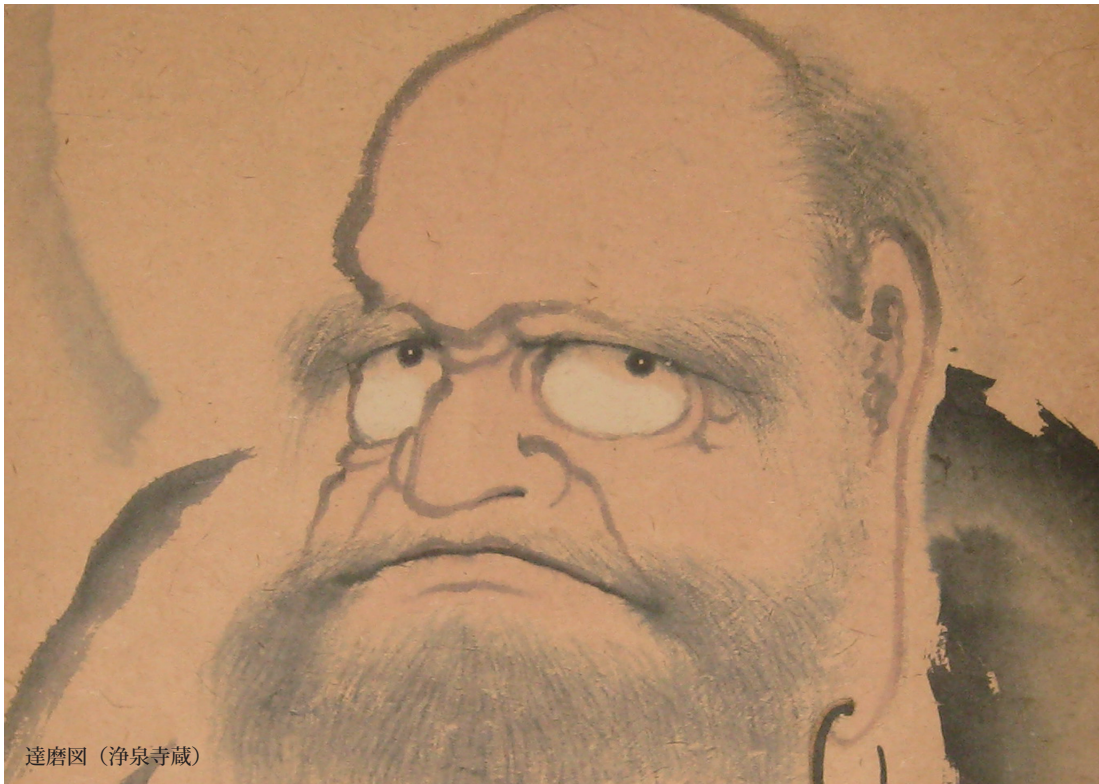




Soto-Zen Jyousenji

# 浄泉寺報

第 5 号



達磨図 (浄泉寺蔵)

輝かしい新春をお迎え、檀信徒の皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

また、喪中にて新年を迎えられましたご家庭におかれましては、本年がよい年となりますよう心からお祈り申し上げます。

なお、檀信徒の皆様には、日頃より浄泉寺の護持等に格別のご高配を賜っておりますこと、年頭にあたり改めて厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、先ずは皆様方のご浄財を仰ぎ、長年の懸案でありました本堂の屋根瓦吹き替え工事をさせていただくことができました。厳しい経済情勢の中、このような事業ができましたこと偏に皆様方の信仰あつてのことと深く感銘いたしました。本当に有難うございました。

そして行事としては、春の花祭り、お盆の万灯会、秋の観月会と三つのイベントを開催いたしました。毎月の坐禅会、写経会そして梅花講(御詠歌)と活動を、十月には梅花講が県大会に出場いたしました。更に、十一月には浄泉寺ゆかりの寺である小田

原の大雄山最乗寺開基六〇〇年大遠忌参拝旅行を実施いたしました。これらの行事には大勢の檀信徒の皆様にご参加をいただき、それぞれ成功裏に終わることができました。

さて、本年についてでございますが、昨年に引き続き幾つかの事業を、より充実し実施してまいりたいと考えておりまして、寺が少しずつでも皆様方の心の拠りどころとなっていくことを願い、事業と運営に力を注いでまいりたいと考えております。更に本年は、一昨年の秋に**大本山永平寺東京別院の御征忌法脈会**で焼香師(導師)をさせていただきましたいただきましたが、この度は毎年四月の下旬に行われております**大本山永平寺報恩大授戒会**での焼香師の大役を拝命いたしました。つきまして菩提寺住職が大本山で導師をするという、またとない機会でございますので、檀信徒の皆様にも随行をお願いいただければと思います。おわりに、ご家族様の皆様のご健勝を心からお祈り申し上げます。

住 職 合 掌

## 当面の行事等

1月 1日 檀信徒初詣

午前9時から午後4時まで

1月 8日～9日

浄泉寺本寺 大雄院(日立市)開山忌

1月10日 総代・世話人会 午前11時30分

2月15日 涅槃会(お釈迦様の忌日法会)

3月18日～24日 春彼岸会

4月 9日 降誕会(お釈迦様の誕生日・花祭り)

午前10時 本堂 イベント実施(後日お知らせ)

※ お子様方をつれて、甘茶をかけにおいでください。夕方までお参りができます。お子様にはお菓子などを用意します。



# 大本山永平寺焼香師随行と奈良の旅

## 特別企画

浄泉寺現住職が

福井県にある曹洞

宗大本山永平寺で

焼香師（導師）の

お役を拝命いたし

ました。毎年四月

に行われまます報恩

大授戒会（お授戒

とは、一定の期

間を定めて、出

家・在家を問わ

ず、戒を授ける法

会です。授かる方

からいえば受戒で

す。戒とは、仏弟

子として生きるた

めに守るべき「仏

の戒め」という意

味です。古くはお

釈迦様の時代（約

二千五百年前）に、

お釈迦様がお弟子

に戒と仏法を授け

られたことに始ま

り、戒法を受ける

こと、つまり受戒

することにより、

初めて仏弟子にな

り、戒法を受ける

こと、つまり受戒

することにより、

初めて仏弟子にな

り、戒法を受ける

こと、つまり受戒

することにより、

初めて仏弟子にな

り、戒法を受ける

こと、つまり受戒

することにより、

初めて仏弟子にな

り、戒法を受ける

こと、つまり受戒

することにより、

初めて仏弟子にな

り、戒法を受ける

こと、つまり受戒

することにより、

初めて仏弟子にな

り、戒法を受ける

こと、つまり受戒

することにより、

初めて仏弟子にな

り、戒法を受ける

こと、つまり受戒

することにより、

初めて仏弟子にな

り、戒法を受ける

こと、つまり受戒

することにより、



大本山 永平寺 法堂



復元された朱雀門

切らせていただきます。

ただし、定員になり次第締め

ただし、定員になり次第締め

ただし、定員になり次第締め

ただし、定員になり次第締め

ただし、定員になり次第締め

ただし、定員になり次第締め

ただし、定員になり次第締め

ただし、定員になり次第締め

ただし、定員になり次第締め

ただし、定員になり次第締め

ただし、定員になり次第締め

ただし、定員になり次第締め

ただし、定員になり次第締め

ただし、定員になり次第締め

ただし、定員になり次第締め

ただし、定員になり次第締め

ただし、定員になり次第締め

ただし、定員になり次第締め

ただし、定員になり次第締め

### 旅行内容

四月二十七日（水）から

二十九日（金）まで

二泊三日

費用 一人 五万円

募集人員 三十五名

申し込み期限

平成二十三年一月末日まで

ただし、定員になり次第締め

## 梅花流奉詠大会に参加



登壇した浄泉寺講のみなさん

去る平成二十二年十月二十五日に、木更津市にあるかずさアカデミアパークにおいて、第十六回梅花流御詠歌の千葉県奉詠大会が開催され、浄泉寺講も参加をいたしました。本大会は隔年で開催されており、浄泉寺講は今回二回目の参加となりました。大勢の皆さんの前でとても緊張しましたが、「正行御和讃」をお唱えいたし、日頃の練習の成果を発表することができました。最後に話題の盲目の高校生ピアノリスト演奏に感動したり本当に充実した楽しい一日でした。

## シリーズ 浄泉寺の文化財

雲板は、禅宗系の寺院で合

図に使用する鳴器です。浄

泉寺の雲板は、応永二十二年

（二四一五）の銘があり、開山

の断江周恩大和尚が持参した

ものと伝えられています。縦

五〇・三cm、横四六・五cm、撞座

一一・六cm、撞座は薄肉の鑄出

しの蓮花文です。縁は、かまぼ

こ縁で内側に子線を廻らしてい

ます。裏は、鑄出しの無文粗地

です。吊り穴は、二個あります。

銘文は、表面中央に「下野

国那須栗山大雄禅寺」、右側に

「応永二十二年」、左側に「乙未

十一月日」とあります。昭和

五十三年に千葉県の有形文化財

の指定を受けており、本来は庫

裡で使われるものですが今は本

堂に置かれています。



応永雲板（千葉県指定文化財）





### 大本山総持寺と 大雄山最乗寺参拝の旅

去る十一月二十一・二十二日の両日、大雄山最乗寺開祖了庵慧明禪師の六百年大遠忌のお参りを主として、大本山総持寺と最乗寺参拝と伊豆の旅を実施しました。総勢約百三十名、バスは4台、浄泉寺は参加者が二十四名で二号車で行ってまいりました。一日目は大本山総持寺を参拝し、雲水さんが心を込めてつくった精進料理のお昼をいただき、伊豆土肥温泉に向かいました。夕食の懇親の場では、浄泉寺から参加した方が、踊り等を披露して喜ばれました。



参拝団のみなさん

二日目は、先ず伊豆の明徳寺（お便所の神様をお祀りする寺）に立ち寄り、昼食の後最乗寺に参拝しました。あいにく雨が降り始め、足元の悪い中、老杉で鬱蒼とする階段を登りようやく山門にたどり着き、バスの号車ごとに記念写真をとって、本堂へのご挨拶の法要をされました。その後、最乗寺の創建に貢献した、同寺の守護神道了大薩埵

（最乗寺創建の時に空を飛んで開祖了庵禪師のもとに参じ、土木の業に従事し、約一年で大事業を成し遂げた。了庵禪師没後「以後は山中にあつて大雄山を護り多くの人々を利済する」と五大誓願文を唱えて天狗に姿を変え飛び去ったと言われている。十一面観音の化身であるとも言われ、多くの人々の信仰を

あつめていた。を祀りする御神殿に登り、参加された皆様の諸願成就の御祈禱をしていただきました。帰りの二号車は、カラオケ大会状態となり、楽しく賑やかに帰ってまいりました。参加された皆様大変お疲れ様でした。



### 初めての観月会

十月二十三日（土）浄泉寺で初めての観月会を開催いたしました。十月は古来から十三夜の月を愛でる習わしがありますが、曜日の関係で三日遅れの開催となりました。しかし、この日は空は晴れわたり、輝くばかりの月が天空にのぼり、観月会が始まりました。本堂内には曹洞宗開祖道元禪師の『観月の像』が掛けられ、禪師の月に関する詩なども紹介され、またお檀家さんによって活けられたススキとお団子をお供えし、佛祖諷経（お釈迦様や御本尊様へのご挨拶の法要）の後、篠笛と太鼓と箏の演奏を聴きました。



篠笛の武田さんと箏の海宝さん

者 武田朋子さん、そして武田さんとデュオ「朋郎」を組む太鼓の内藤哲郎さん、さらに四月の花祭りにおいていただいた箏奏者の海宝幸子さんの三名の方です。



デュオ「朋郎」

### 幽玄の世界「万燈会」





演奏会風景

いただきました。灯りを落とした本堂内には、送り盆で訪れた方々や琵琶を楽しみに来られた参加者でいっぱいになりました。

初めて生で琵琶の音を聴いた人も大勢おられ、冴えわたる琵琶の音と朗々たる岩佐さんの謡にお声を寄せていただきました。今年もいろいろと行事をしてまいりましたが、今後とも皆様のご支持をいただける催し物等を実施していきたいと思っておりますので、案内がございましたら是非ご参加くださいますようお願いいたします。また、皆様のご意見やご要望等もお聞かせください。

### 各種講座等のご案内

◎梅花流（曹洞宗）御詠歌講

梅花流詠歌は、曹洞宗の御詠歌・和讃です。

詠賛歌を学んでいくと自然に安らかな気持ちになり、正しい生き方を実践することができま。そして生きるための希望と、生きていくことへの感謝の心で幸福になります。どうぞお気軽にご参加ください。

毎月第三土曜日

午後二時から午後四時まで

◎坐禅会

曹洞宗の信仰生活の中心は、坐禅です。仏法を味わい、自己をみつめることができます。

毎月第一日曜日

午前六時から午前八時まで

◎写経会

最も簡単な仏道修行であり、心身を調え、静に落ち着いた時間を大切に祈りや願いを生活に活かすことのできる写経を、是非始めてみませんか。

毎月第三日曜日

午後二時から午後四時まで

※ これらの講座は、日時が変更となる場合がありますので、お問い合わせください。

### 浄泉寺墓苑のご案内



本堂の裏手に雛段状に配置された浄泉寺墓苑は、眺望がよく美しく整備された聖地です。

#### 永代使用料

- ◎ 一・八 m 二十万円
  - ◎ 二・一六 m 二十五万円
  - ◎ 二・七 m 三十万円
  - ◎ 四・三二 m 五十万円
- ※年間管理費 一区画 三千元  
その他低廉な価格での墓石工事のプロデュースも行っております。

また、ご夫婦・個人向け永代供養墓もございます。さらにペットの納骨供養塔も、多くの方に利用されております。お問い合わせください。

### 仏教豆知識

#### 追善の意味

追善とは、「追福修善」あるいは「追福作善」を略したもので、追福、追薦、追孝ともいいます。「薦」という字には、「たてまつる」とか「供物」という意味があり、「追」の字にも「後を慕う」、「慕いまつる」という意味があります。

善事を修め、供養を施して亡き人の冥福を祈ること、これが追善の意味です。「善事」とは、直接的には、故人の命日に、仏壇に供養の品々をそなえ、菩提寺の僧侶に頼んで読経供養してもらい、霊位の菩提を祈ることをいいます。

「菩提」とは、煩惱を離れて悟りを得ること、つまり仏さまと同じように悟りを開くことで、仏果（成仏のあかし）ともいいます。

といっても善事は、ただ特定の故人の冥福を祈る法事を意味するものではありません。もっと広く有縁無縁の精霊のために菩提を祈ること、あるいは世間に対しては、「慈善」を行うこと、

これが本来の善事です。

また法事を行うことによつて、生命の大切さを感じたり、人にやさしい気持ちになれたとしたら、それは善い事を自分に對しても行ったことになるので

「放してやる？ あのお前の大事の鳥をか？」

「ええ、ええ、大事の鳥でもかまわなくてよ。お隣の赤さんのお追善ですもの。ほら、放鳥つて云うでしょう。あの放鳥をして上げるんだわ。文鳥だつてきつと喜んでよ。」

（芥川龍之介「母」）

#### やすらぎは

#### ご先祖の供養から

平成二十三年	年回表
一周 忌	平成二十二年
三回 忌	平成二十一年
七回 忌	平成十七年
十三回忌	平成十一年
十七回忌	平成七年
二十三回忌	平成元年
二十五回忌	昭和六十二年
二十七回忌	昭和六十年
三十三回忌	昭和五十四年